

産地パワーアップ事業の取組事例

(北海道)

取組の概要

取組の概要 : 次代を担う産地強化への体制整備
計画作成主体 : 小清水町地域農業再生協議会
対象品目 : 人参(産地面積:126ha)
主な取組主体 : 小清水町農業協同組合
成果目標 : 販売額の10%以上の増加
(10a当たり)
助成金の活用 : 整備事業(人参集出荷貯蔵施設)
状況 : 生産支援事業(人参ハーベスター)

ポイント

労働力不足に対する収穫支援体制を整備し労働力の負担を軽減することで作付面積の拡大を図るとともに、予冷設備を整備することで出荷先のニーズに応える鮮度保持が可能となり、単価がアップし、10a当たり販売額の22.5%以上の増加を実現。

地区の概要



産地の現状と目標

現状:H27年度

作付面積:98ha(出荷数量:3,283t)
10a当たり販売額(製品):311,386円

目標:H30年度

作付面積:126ha(出荷数量:3,907t)
10a当たり販売額(製品):381,398円



推進体制

地域の関係者(小清水町、小清水町農業協同組合、農業関係者等)が一体となり、事業を推進。

地域における独自の取組

主な取組

肥料・農薬使用を低減した栽培を実施。
人参部会の基準に沿った取組を実施。

小清水町・JA連携事業

「人参収穫支援サポート事業」として労働力不足を補う次世代営農スタイルを構築。

事業効果

収穫支援体制を整備し、労働力不足を補うことにより面積が拡大。
予冷施設の整備により原料・製品の鮮度保持が可能となり、単価のアップと販売額の増加により生産者の所得が向上。

～10a当たり販売額～

